横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

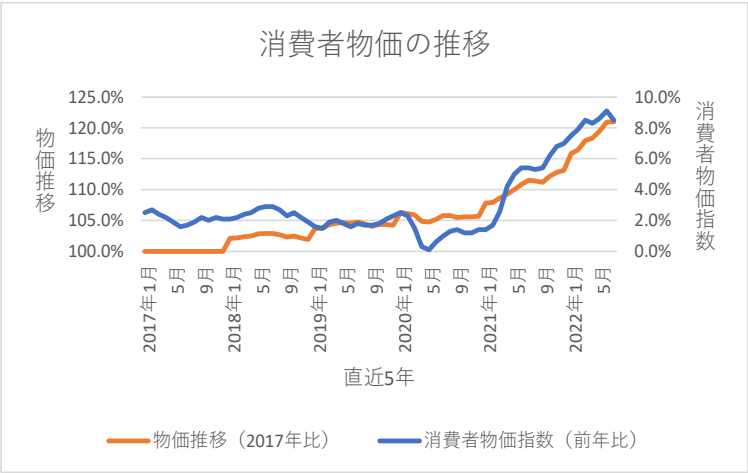
週間トピックス　Vol. 533（2022. 9. 9）

＜今週のトピックス＞

米国人も倹約！？

米国は消費大国、米国人は消費が大好き、クレジットカードを利用してでも消費を行う、米国にはこのような印象を持っている方が多いのではないでしょうか。確かに今でも GDP の約 7 割は消費する米国ですが、コロナを起因とするインフレの加速でその消費にも変化が出てきました。日本人の多くの方が一度は訪れたことがあるダイソーなどに代表される 100 円ショップですが、米国でも 100 円ショップに似た 1 ドルショップが流行っているとの記事が紹介されておりました。長引くインフレにより、倹約を余儀なくされている訳ですが、本当に米国人に馴染むのか疑問を感じます。

米国の 1 ドルショップを紹介する前にまず米国での物価の動きについて見ていきましょう。昨年より毎月のように注目されている米国消費者物価指数ですが、コロナ感染拡大が起こる以前は 2.0%前後で推移をしており、緩やかな成長を続けていました。コロナ禍となっても外出自粛による消費活動の抑制により 2.0%を下回る動きとなっていましたが、2021 年 5 月に公表された前月 4 月の実績 4.2%を境に状況が一遍、2021 年 5 月実績 5.0%、2021 年 10 月実績 6.2%、2021 年 12 月実績 7.0%、2022 年 3 月実績 8.5%、2022 年 12 月実績 9.1%と上昇を続けてきました。ワクチン接種の拡大によるリベンジ消費、ロシア・ウクライナ問題による原油高騰など様々な要因が重なっているわけですが、明らかに物の値段が高騰しています。2017 年の物価を 100%とした場合、足元の 2022 年 7 月の物価は 121.0%と 5 年前から 21.0%も価格が高騰しています。消費が好きな米国人でも消費を抑えねばならない環境になっている現状と言えるのです。



Copyright (c) 2018 The Bank of Yokohama, Ltd. All rights reserved.

ここまでを見てみると米国人でも消費を抑制しなければならない習慣になってきたことが分かると思います。ではここからは米国での 1 ドルショップについて紹介をしたいと思います。米国で 1 ドルショップと言えば代表格はダラー・ゼネラルとダラー・ツリーの 2 社です。ダラー・ゼネラルは全米に約 18,000 店を展開する総合小売店ですが、1 ドル均一というわけではなく、価格帯を 1 ドルから 10 ドル以下に設定し、食品・飲料、スナック類、清掃用品、玩具、家具などの生活必需品を提供しています。現状では約 2,300 店舗でしか扱えていない生鮮品を今後数年間で約 10,000 店まで拡大する計画を打ち出しています。インフレ長期化を契機とした需要の高まりに応える対応と言えます。ダラー・ツリーは全米に約 16,000 店を展開し、同じく食品、スナック類、清掃用品、化粧品、家庭用品などを幅広く品揃えしていますが、ダラー・ゼネラルとの違いは価格を均一にしている点です。従前は 1 ドル均一を守ってきましたが、昨年 11 月に価格を 1.25 ドルに値上げすることを発表。インフレ長期化による影響ですが、それでも米国小売店の中では相当安い商材を提供していることに変わりはありません。この両社ですが、本当にインフレの長期化で需要が伸びているのか疑問に思うかもしれません。ここで両社の決算状況を見ていきましょう。

【2社の決算状況】

単位：百万ドル

社名	ダラー・ゼネラル（Dollar General Corporation）			ダラー・ツリー（Dollar Tree, Inc.）		
市場	ニューヨーク証券取引所(NYSE)			ナスダック(NASDAQ)		
決算期	2020/1月期	2021/1月期	2022/1月期	2020/1月期	2021/1月期	2022/1月期
決算日	2020/1/31	2021/1/29	2022/1/28	2020/2/1	2021/1/30	2022/1/29
売上高	27,753	33,746	34,220	23,610	25,509	26,321
営業利益	2,302	3,554	3,220	1,262	1,887	1,811
税引前利益	2,201	3,404	3,063	1,098	1,739	1,632
当期利益	1,712	2,655	2,399	827	1,341	1,327
総資産	22,825	25,862	26,327	19,574	20,696	21,721
自己資本	6,702	6,661	6,261	6,254	7,285	7,718
自己資本比率	29.4%	25.8%	23.8%	32.0%	35.2%	35.5%
株価（ドル）	153.41	194.61	204.33	87.15	101.66	128.49
直近株価（ドル）	237.42			135.68		

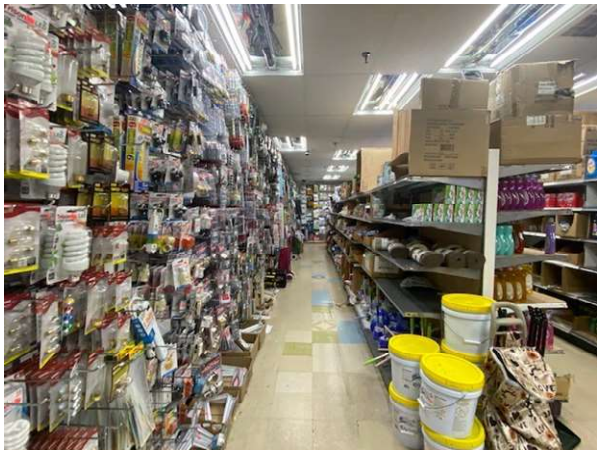
※株価は決算日終値を記載。

※株価は決算日終値を記載。直近株価は2022/08/31時点の終値を記載。

上記のように直近 3 年間で明らかに業績は成長しています。特にコロナ感染拡大が一番問題となった 2020 年度（2021/1 月期）においてはダラー・ゼネラルで約 21.5%の、ダラー・ツリーでは約 8.0%の売上増加が見られます。また株価においては、ダラー・ゼネラルが 2020 年 1 月末から 2022 年 7 月末までで約 54%、ダラー・ツリーの同時期で約 55%の株価上昇となっています。これはインフレ長期化で両社の需要が高まると投資家が予想しているためだと見ることもできます。

Copyright (c) 2018 The Bank of Yokohama, Ltd. All rights reserved.

このように米国におけるインフレの長期化は大きな問題になっており、FRB による利上げが過去に例がないスピードで進み、いずれは消費者物価指数も落ち着いてくることが想定されますが同時にリセッションも想定されてきます。コロナを発端とするインフレの長期化が米国人の消費を抑え、倹約する世の中を作っていくのかもしれません。



（出所：Wall Street Journal、Dollar General Corporation / Dollar Tree Annual Report）

・本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
・ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申しあげます。
・本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
・本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
・本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。

Copyright (c) 2018 The Bank of Yokohama, Ltd. All rights reserved.